

# コンフィグレーション

概要・基本設定 . . . . .	2
設定の保存と復元 . . . . .	2
コマンドリファレンス編 . . . . .	4
機能別コマンド索引 . . . . .	4
CREATE CONFIG . . . . .	5
SET CONFIG . . . . .	6
SHOW CONFIG . . . . .	7

## 概要・基本設定

本製品では、コマンド入力によって設定した内容をテキスト形式のスクリプトファイルとして保存できます。さまざまな設定を異なる名前のファイルとして保存しておき、必要に応じて切り替えて使うことが可能です。

## 設定の保存と復元

コンソールなどから設定した内容はメモリー上にあるため、システムを再起動すると消えてしまいます。次回以降も同じ設定を使いたい場合は、設定内容をスクリプトファイルに保存する必要があります。

■ メモリー上の設定内容をファイルに保存するには、**CREATE CONFIG** コマンド (5 ページ) を使います。ファイルの拡張子は「.cfg」か「.scp」とします。例えば、現在の設定内容を「mylan.cfg」に保存するには、次のように入力します。指定したファイルが存在しない場合は新規に作成され、すでに存在する場合は上書きされます。

```
CREATE CONFIG=mylan.cfg ↵
```

本コマンドで作成したファイルには、設定内容がスクリプト形式で保存されます。ただし、スクリプトの内容は一定の基準にしたがった書式に変換されているため、コマンドラインで入力したものとまったく同じではありません（例えば、長い行は **ADD** と **SET** のように複数行に分けて保存されます）。しかし、保存されている情報は同じです。

■ 設定をファイルに保存しただけでは、再起動時に自動復元されません。**SET CONFIG** コマンド (6 ページ) を使って、保存した設定スクリプトが次回起動時に読み込まれるよう設定する必要があります。起動時に読み込まれる設定スクリプトのことを「起動スクリプト」、「起動ファイル」、「起動時設定ファイル」などと呼びます。

```
SET CONFIG=mylan.cfg ↵
```

■ 現在の起動スクリプトを確認するには、オプションなしで **SHOW CONFIG** コマンド (7 ページ) を実行します。

```
SHOW CONFIG ↵
```

■ 現在のメモリー上の設定内容を確認するには、**SHOW CONFIG** コマンド (7 ページ) に **DYNAMIC** オプションを付けて実行します。設定内容がスクリプト形式で表示されます。

```
SHOW CONFIG DYNAMIC ↵
```

■ **DYNAMIC** オプションにモジュール名を指定することにより、特定モジュールの設定だけを確認することもできます。例えば、**VLAN** の設定だけを確認するには次のように入力します。

```
SHOW CONFIG DYNAMIC=VLAN ↵
```

■ 次回、空の設定で起動させたいときは、起動スクリプトを「なし」にします。これは、設定をいちからやりなおしたいときなどに便利です。**SET CONFIG** コマンド (6 ページ) に **NONE** を指定してください。

SET CONFIG=NONE ↵

# コマンドリファレンス編

## 機能別コマンド索引

### 概要・基本設定

CREATE CONFIG . . . . .	5
SET CONFIG . . . . .	6
SHOW CONFIG . . . . .	7

## CREATE CONFIG

カテゴリー：コンフィグレーション

**CREATE CONFIG=filename**

**filename:** ファイル名（ピリオドと拡張子を含み）15 文字まで。半角英数字、およびハイフン [-]、アンダーバー [\_]、ピリオド [.]、開始丸かっこ [ (]、終了丸かっこ [)] が利用可。拡張子は「.cfg」または「.scp」。大文字・小文字の属性は無視されるが、表示には大文字・小文字の区別が反映される

### 解説

現在の設定内容（メモリー上の設定内容）をスクリプトファイルに保存する

### パラメーター

**CONFIG** 設定ファイル名。指定したファイルがすでに存在していた場合は上書きされる。存在しない場合は新規作成される

### 入力・出力・画面例

```
Manager > create config=sample.cfg  
  
Operation successful.
```

### 例

■現在の設定内容をスクリプトファイルに保存する

```
CREATE CONFIG=sample.cfg
```

### 関連コマンド

SET CONFIG (6 ページ)

SHOW CONFIG (7 ページ)

## SET CONFIG

カテゴリー：コンフィグレーション

**SET CONFIG=filename**

*filename*: 設定ファイル名「.cfg」または「.scp」

### 解説

起動時に読み込まれるデフォルトの設定ファイル（起動時設定ファイル）を指定する

### パラメーター

**CONFIG** 設定スクリプトファイル（.cfg または.scp）

### 入力・出力・画面例

```
Manager > set config=sample.cfg  
  
Operation successful.
```

### 例

■起動時設定ファイルを指定する

SET CONFIG=sample.cfg

### 関連コマンド

CREATE CONFIG (5 ページ)

SHOW CONFIG (7 ページ)

## SHOW CONFIG

カテゴリー：コンフィグレーション

**SHOW CONFIG** [{DYNAMIC [=module-name] | ALL [=module-name] }]

**module-name**: 機能名。SYSTEM、LOAD、CONSOLE、VLAN、STATIC MAC、SWITCH、TRUNK、MIRROR、IP、ACCESS FILTER、SNMP、TELNET、FTP、TFTP、LOG のいずれかを指定する

### 解説

起動時設定ファイル名を表示する。また、DYNAMIC オプションを指定した場合は、現在の設定内容（メモリー上の設定内容）を設定ファイルと同じ形式で表示する。ALL オプションを指定した場合は、初期設定も含めてすべて表示する

### パラメーター

**DYNAMIC** デフォルト値と異なる設定内容のみを表示する。指定しない場合、起動時設定ファイル名が表示される。**module-name** を指定した場合（例：SHOW CONFIG DYNAMIC=IP）は、デフォルト値と異なる該当モジュールの設定だけを表示する

**ALL** 初期設定を含めたすべての設定内容を表示する。**module-name** を指定した場合（例：SHOW CONFIG ALL=IP）は、該当モジュールの設定だけをすべて表示する

### 入力・出力・画面例

```
Manager > show config

Boot configuration file: system2.cfg (exists)
Current configuration: system.cfg

Manager FS808M> show config dynamic

#
# SYSTEM configuration
#
SET SYSTEM NAME="FS808M"

#
# IP configuration
#
ADD IP INTERFACE=default IPADDRESS=192.168.1.5 MASK=255.255.255.0
#
```

Boot configuration file	次回起動時に実行される設定ファイル名。ファイルが存在する (exist) か存在しないか (doesn't exist) も表示される
Current configuration	今回の起動時に実行された設定ファイル名。「None」の場合には、設定ファイルを読み込んでいない

表 1:

## 例

■現在の、デフォルト値と異なる設定内容を表示する

```
SHOW CONFIG DYNAMIC
```

■起動時設定ファイル名を表示する

```
SHOW CONFIG
```

## 関連コマンド

CREATE CONFIG (5 ページ)

SET CONFIG (6 ページ)